

安中市地域公共交通計画 概要版



～みんなで育て 魅力ある元気なまちを 実現する 地域公共交通～

1 計画の趣旨

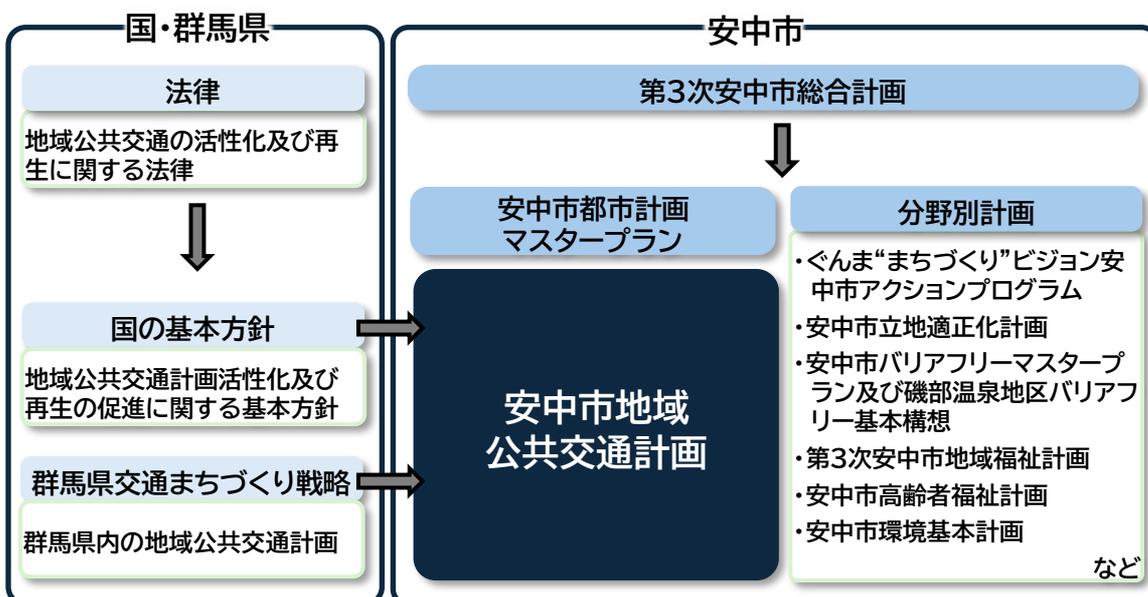
■計画の位置づけ

- 地域公共交通のマスタープランとして、『安中市地域公共交通計画』を策定しました。
- 交通に関する基本的な方針を示し、その他関連計画と整合・連携を図ります。

■計画の対象サービス

- 不特定多数の方を対象とした移動手段である公共交通を主な対象とします。

【計画の位置づけ】



【本計画の対象交通サービス】

(不特定の方の利用を対象とした移動手段・サービス)



連携・調整

【本計画と連携・調整を図る交通サービス】
(主に特定の方の利用を対象とした移動手段)



■計画の期間

- 令和8年度から令和12年度までの5年間
- 原則として5年後に計画を見直します。

■計画の区域

- 安中市内全域

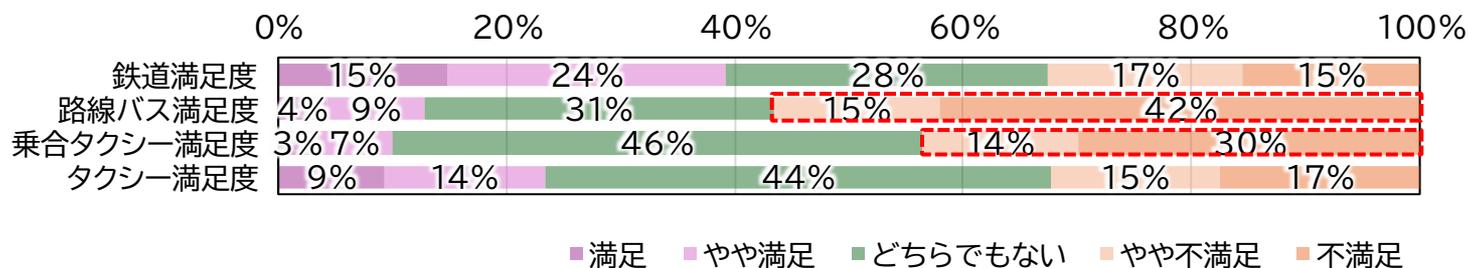
2 現状と課題

公共交通に関する現状と課題の整理

課題① 市民ニーズに合致した利用しやすい公共交通サービスの再構築が必要

- 路線バス、乗合タクシーについては、アンケート調査で「不満足」、「やや不満足」の割合が多いなど、市民のニーズに合致していない可能性が高いと考えられます。

令和5年実施のアンケート調査結果



課題② 公共交通空白地域の解消に向け新たな公共交通の導入が必要

- 公共交通空白地域※人口が、約3割もあり、市民の移動を支える新たな公共交通サービスの検討が必要です。

※鉄道駅半径1km圏域外、バス停半径300m圏域外、乗合タクシーフリー乗降区間300m圏域外

課題③ 新たな交通結節点の構築と強化が必要

- 中心市街地と鉄道駅が離れている、電車とバスの発着時刻が離れているなど、不便な状況です。
- 中心市街地への新たな交通結節点の構築、鉄道とバスの運行ダイヤの連携などが求められます。

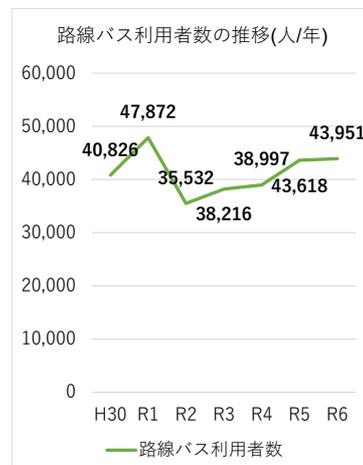
令和5年実施のアンケート調査結果



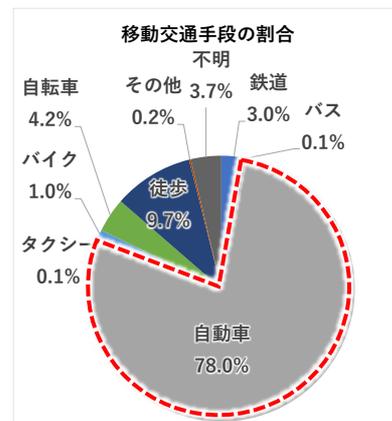
駅やバス停まで遠いので公共交通は利用していません

課題④ 公共交通の維持に向けた周知・利用促進が必要

- 公共交通の利用者数は減少傾向で、コロナ禍前の水準にも回復していません。
- 本市は、自動車での移動が多いため、分かりやすい情報発信などを行い、公共交通の利用促進が求められます。



出典：本市集計



出典：平成27年度群馬県パーソントリップ調査

課題⑤ 担い手不足の改善や新技術等の導入による業務効率化が必要

- 路線バス運転手などは年々減少傾向。高齢化も深刻となっています。
- 担い手不足の中でもサービスを維持していけるよう、労働者の負担軽減に資する省力化・自動化の取組を進めることが必要です。

課題⑥ 公共交通に係る施設、車両のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化が必要

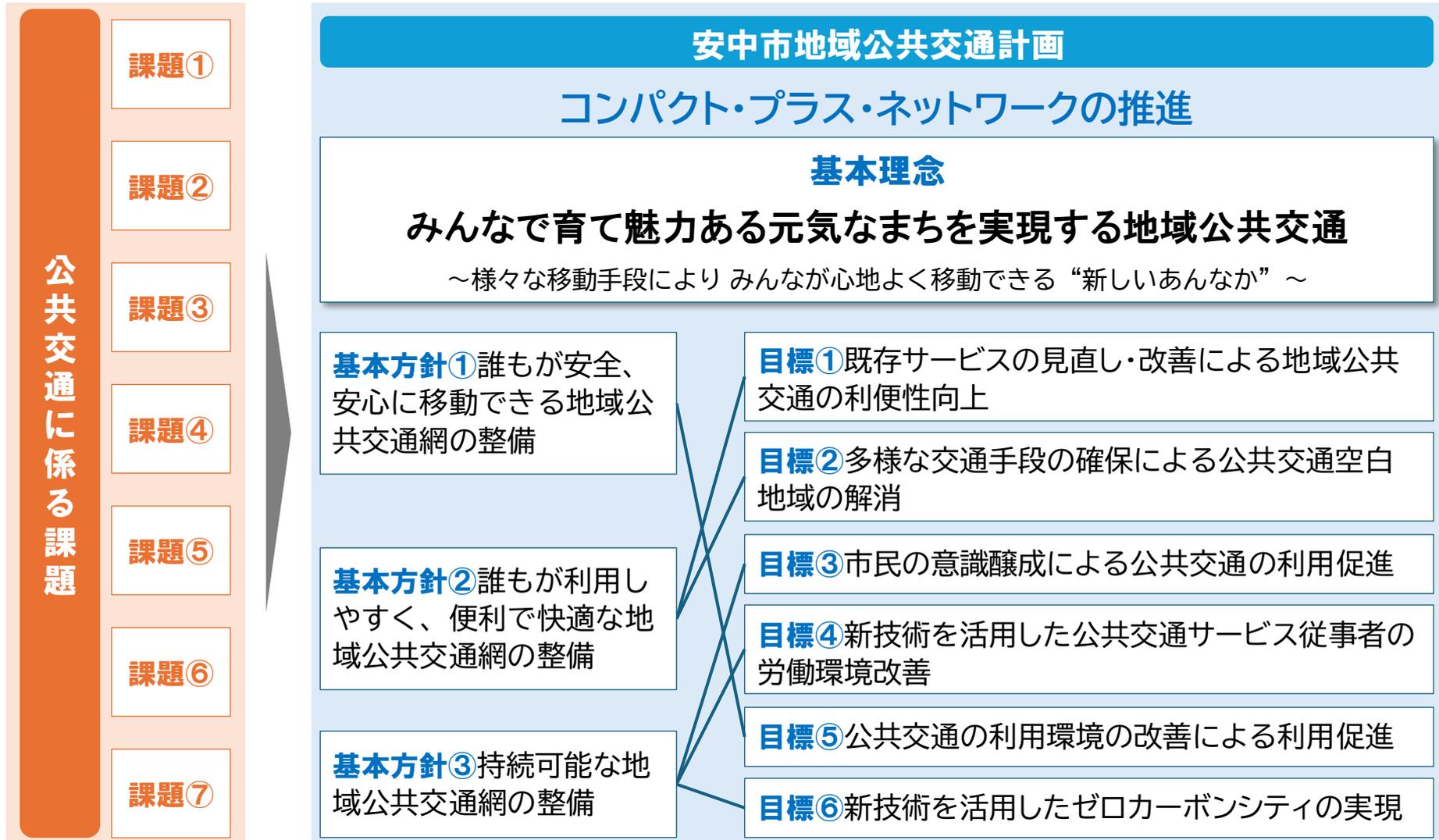
- 誰もが安全で円滑に移動できるよう、公共交通の施設や車両のバリアフリー、ユニバーサルデザイン化が必要です。
- 近年のインバウンド需要の高まりを受け、案内標示の多言語化が必要です。

課題⑦ ゼロカーボンシティの実現に向けた取組が必要

- 脱炭素社会の実現に向け、燃料電池車、電気自動車などへの対応が必要です。

3 基本的な方針

➤ 「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進し、市民ニーズや利便性、安全性、持続性を重視した公共交通網を構築していくため、目指すべき将来像(基本理念)、3つの基本方針、6つの目標を設定しました。



4 計画目標達成のための取組み

➤ 6つの計画目標の達成に向けた施策を実施します。

計画目標		取組施策(案)
目標① 既存サービスの見直し・改善による地域公共交通の利便性向上	施策1-1	路線バス、乗合タクシー網の再編、運行サービスの見直し、改善
	施策1-2	AIデマンド交通の導入等
	施策1-3	自動運転車両の導入
	施策1-4	鉄道新駅設置の検討促進
目標② 多様な交通手段の確保による公共交通不便地域の解消	施策2-1	既存の公共交通サービスと連携、補完する新たな移動手段の導入
	施策2-2	公共交通を補完するシェアリングサービス(カーシェア、シェアサイクル、シェア電動キックボード等)の導入
目標③ 市民の意識醸成による公共交通の利用促進	施策3-1	モビリティマネジメント等の実施による公共交通の利用促進
	施策3-2	事業者と協働した公共交通の乗り方教室、乗車体験会等の開催
	施策3-3	公共交通の利用啓発、案内の充実(情報提供、マップ、ホームページ、イベント)
目標④ 新技術を活用した公共交通サービス従事者の労働環境改善	施策4-1	新技術導入による管理の効率化(ICTを活用した遠隔点呼、運行管理の一元化)
	施策4-2	ドライバー等公共交通従事者の待遇改善等による人材の確保
目標⑤ 公共交通の利用環境の改善による利用促進	施策5-1	交通施設、車両のバリアフリー化の推進
	施策5-2	多言語に対応した公共交通に関する情報提供の充実
	施策5-3	バス待ち環境の改善(情報提供等の充実)
	施策5-4	MaaSサービスの導入、既存のMaaSサービスとの連携
目標⑥ 新技術を活用したゼロカーボンシティの実現	施策6-1	EV(電動)車両、FCV(燃料電池)車両等の導入

4 計画目標達成のための取組み

目標1 既存サービスの見直し・改善による地域公共交通の利便性向上

施策1-1 路線バス、乗合タクシー網の再編、運行サービスの見直し、改善

- 令和8年3月から路線バス、乗合タクシー網を再編し本格運行を開始します。
- 西毛広域幹線道路の開通を見据えた都市間輸送バスの検討を実施します。
- 市内の主要な拠点で様々な交通手段の乗り換えが可能なハブ機能の強化・充実を図ります。

【再編後の公共交通ネットワークイメージ】

「梅で結ぶY-umeプロジェクト」



【再編後の市委託路線バス(あんバス)車両イメージ】



施策1-2 AIデマンド交通の導入等

- 路線バスではカバーできない地域等を対象に令和8年3月からAI新交通(あんなカー)を本格導入します。

【令和8年3月からのAIデマンド交通の概要】



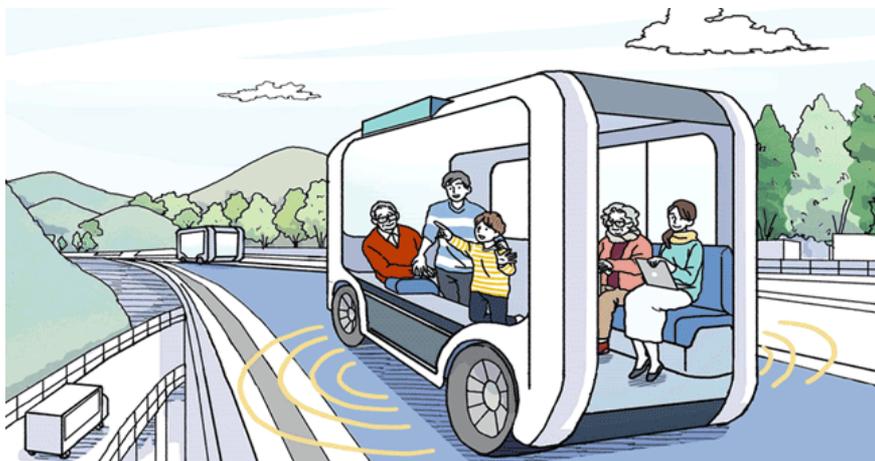
【AI新交通(あんなカー)車両イメージ】



施策1-3 自動運転車両の導入

- 運転手不足などに対応するため、自動運転車両の導入について検討します。
- 自動運転に対する意識啓発などについて、地域住民との合意形成を図ります。

【自動運転車両のイメージ】



出典:2040年道路の景色が変わる 2020年6月 国土交通省

施策1-4 鉄道新駅設置の検討促進

- JR信越本線の安中駅・磯部駅間に構想している新駅設置について検討を促進します。
- 新駅検討の勉強会、アンケート調査、ワークショップなどにより、検討の深度化を図ります。

【安中新駅構想周辺】まちづくりイメージ(案)



アンケート調査や市民ワークショップで得られた意向をイメージ図に表現

4 計画目標達成のための取組み

目標2 多様な交通手段の確保による公共交通空白地域の解消

施策2-1 既存の公共交通サービスと連携、補完する新たな移動手段の導入

- 生活に密着した比較的【ボランティア輸送の事例】小さなエリアを対象に、既存の公共交通との連携や公共交通を補完するような新たな移動手段の導入を検討します。



細野地区ボランティア輸送
令和元年度実施時の車両

- 旧松井田地区で実施中の移動販売車を旧安中市でも運行します。

【移動販売車の実施事例】

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
10:00~10:30	10:00~10:30	10:00~10:30	10:00~10:30	10:00~10:30
10:30~11:00	10:30~11:00	10:30~11:00	10:30~11:00	10:30~11:00
11:00~11:30	11:00~11:30	11:00~11:30	11:00~11:30	11:00~11:30
11:30~12:00	11:30~12:00	11:30~12:00	11:30~12:00	11:30~12:00
12:00~12:30	12:00~12:30	12:00~12:30	12:00~12:30	12:00~12:30
12:30~13:00	12:30~13:00	12:30~13:00	12:30~13:00	12:30~13:00
13:00~13:30	13:00~13:30	13:00~13:30	13:00~13:30	13:00~13:30
13:30~14:00	13:30~14:00	13:30~14:00	13:30~14:00	13:30~14:00
14:00~14:30	14:00~14:30	14:00~14:30	14:00~14:30	14:00~14:30
14:30~15:00	14:30~15:00	14:30~15:00	14:30~15:00	14:30~15:00
15:00~15:30	15:00~15:30	15:00~15:30	15:00~15:30	15:00~15:30
15:30~16:00	15:30~16:00	15:30~16:00	15:30~16:00	15:30~16:00

施策2-2 公共交通を補完するシェアリングサービス(カーシェア、シェアサイクル等)の導入

- 市内で実施中のカーシェアサービスをさらに拡充します。

【実施中のカーシェアサービス】



安中榛名駅のカーシェアリングステーション



横川駅でのカーシェアスタートセレモニー
出典:群馬ダイハツ自動車HP

- シェアサイクルやシェア電動キックボード等の導入を検討します。
- シェアサイクルは、横川駅周辺や構想中の新駅周辺で計画中の道の駅、磯部温泉街での設置を検討します。

【シェアサイクルの導入事例】



高崎駅西口のシェアサイクルポート
出典:高崎まちなかコミュニティサイクルHP

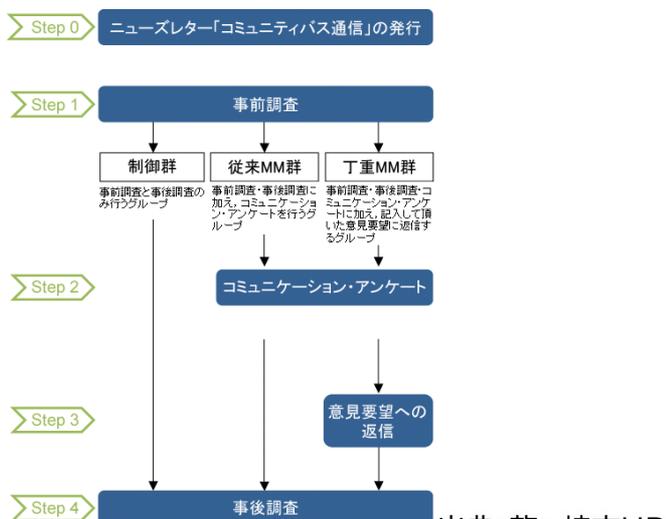
目標3 市民の意識醸成による公共交通の利用促進

施策3-1 モビリティマネジメント等の実施による公共交通の利用促進

- ノーマイカーデー、通勤・通学の公共交通へ転換など、自動車から公共交通利用への意識啓発(モビリティマネジメント)を実施します。
- 市内のおすすめスポットや公共交通のモデルルートなどについて、広報・電子媒体などを通じて周知します。

【モビリティマネジメントの実施事例】

茨城県龍ヶ崎市が実施したモビリティマネジメントの流れ



出典:龍ヶ崎市HP

施策3-2 事業者と協働した公共交通の乗り方教室、乗車体験会等の開催

- バスの利用促進のため、交通事業者などと連携し、乗り方教室の開催を継続します。
- AI新交通(あんなカー)の乗り方教室も開催し、利用促進に努めます。

【市内小学校での乗り方教室の様子】



4 計画目標達成のための取り組み

目標3 市民の意識醸成による公共交通の利用促進

施策3-3 公共交通の利用啓発、案内の充実 (情報提供、マップ、ホームページ、イベント)

- ・老朽化したバス停留所の看板を更新します。
- ・路線図・時刻表・運賃・乗り方などからなる公共交通ガイド(紙媒体、バス停への2次元コードの設置)を作成します。
- ・既存のイベント等を活用した啓発活動や利用促進キャンペーンを開催します。

【バス情報提供の事例】



前橋駅のデジタルサイネージ
出典:前橋市交通ポータル

【バスマップ作成事例】



出典:渋川市HP

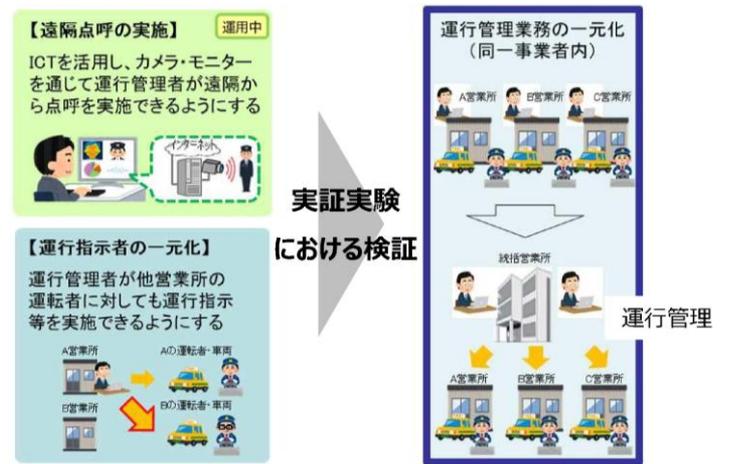
目標4 新技術を活用した公共交通サービス従事者の労働環境改善

施策4-1 新技術導入による管理の効率化

- ・本市の一部交通事業者は、労働環境の改善、人手不足の解消などに向けた手段としてICT技術を活用した遠隔点呼などをしており、今後もICT技術を活用した管理の効率化を継続します。

【交通事業者の運行管理効率化の推進イメージ】

事業者内の運行管理業務の一元化の導入



出典:ラストワンマイル・モビリティ/自動車DX・GXに関する検討会 第1回検討会資料2

目標4 新技術を活用した公共交通サービス従事者の労働環境改善

施策4-2 ドライバー等公共交通従事者の待遇改善等による人材の確保

- ・公共交通従事者の担い手不足解消に向けた行政支援のあり方を検討します。
- ・交通事業者が実施している免許取得時の助成、待遇改善、職場環境の改善などの取組を継続します。

【行政支援策の事例】



バス運転手紹介フレットの事例
出典:関東運輸局HP



バス運転手就職説明会の事例
出典:前橋交通ポータル

目標5 公共交通の利用環境の改善による利用促進

施策5-1 交通施設、車両のバリアフリー化の推進

- ・低床バスやユニバーサルデザインタクシー購入時の補助金を継続します。
- ・磯部駅周辺のバリアフリー化の整備について、検討します。

【車両のバリアフリー化】



低床バスの車内



ユニバーサルデザインタクシー

4 計画目標達成のための取組み

目標5 公共交通の利用環境の改善による利用促進

施策5-2 多言語に対応した公共交通に関する情報提供の充実

- 訪日外国人の増加などに対応するため、交通事業者と連携し、駅、バス停での多言語表示やバス路線のナンバリングの推進を検討します。

【多言語表示・ナンバリングの事例】



施策5-3 バスやデマンドの待ち環境の改善 (情報提供等の充実)

- バスの運行状況などをリアルタイムで確認できるバスロケーションシステムの導入を検討します。
- 構想中の鉄道新駅に整備するバス停などを対象に、デジタルサイネージの導入を検討します。
- バス停周辺の商業施設などと連携し、バスの待ち合い環境を整備します。

【デジタルサイネージの事例】

【安中榛名駅のバス停】



路線名・方面	定期	出発時刻
南52 新町玉村線 → 榛橋公園	13:31	まもなく
南30 榛社線 → 群馬福祉社	13:40	あと12分
●00 〇〇〇〇線 →	14:30	(14:30)

路線名・方面	定期	出発時刻
南56 下川団地線 → 中央通り	13:30	まもなく
南56 下川団地線 → 中央通り	13:33	あと5分
南52 新町玉村線 → 玉村町役場	13:35	あと7分

デジタルサイネージ表示イメージ
出典:群馬県HP

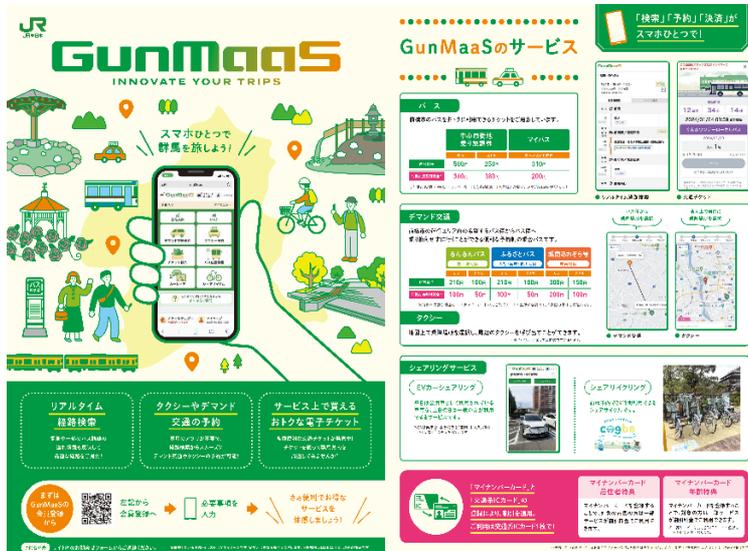
目標5 公共交通の利用環境の改善による利用促進

施策5-4 MaaSサービスの導入、既存のMaaSサービスとの連携

- 既存のMaaS※システムと連携しながら、段階的な導入を推進します。
- キャッシュレス決済の拡充、デジタルフリーパスの発行、MaaSによる一括予約・決済のシステムの導入を検討します。

※鉄道やバス等の様々な移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済等を一括で行うことができるサービスで、Mobility as a Serviceの略

【群馬県でのMaaS導入事例】



目標6 新技術を活用したゼロカーボンシティの実現

施策6-1 EV(電動)車両、FCV(燃料電池)車両等の導入

- EV車両やFCV車両などの導入やエネルギー供給拠点整備を検討します。
- 気候変動に関わる情報提供、省エネ・再エネへの意識啓発を実施します。

【EVバスの導入事例】 (館林市)



館林市提供

令和6年2月1日から
利便性向上のため
「多々良巡回線」経路及びダイヤ改正

総合福祉センター経由便を振り替え、県立館林美術館経由便を増便
日曜・祝日ダイヤを新設し、美術館直行便を運行
利用者の快適性向上、環境負荷の低減のため、電気バスを導入

【多々良巡回線改正概要】
運行便数：15便→14便
美術館経由便：平日土 4便→8便
日曜 4便→9便
車両：大型ワゴン電気バス
定員14名→定員29名

出典:館林市HP

5 数値指標

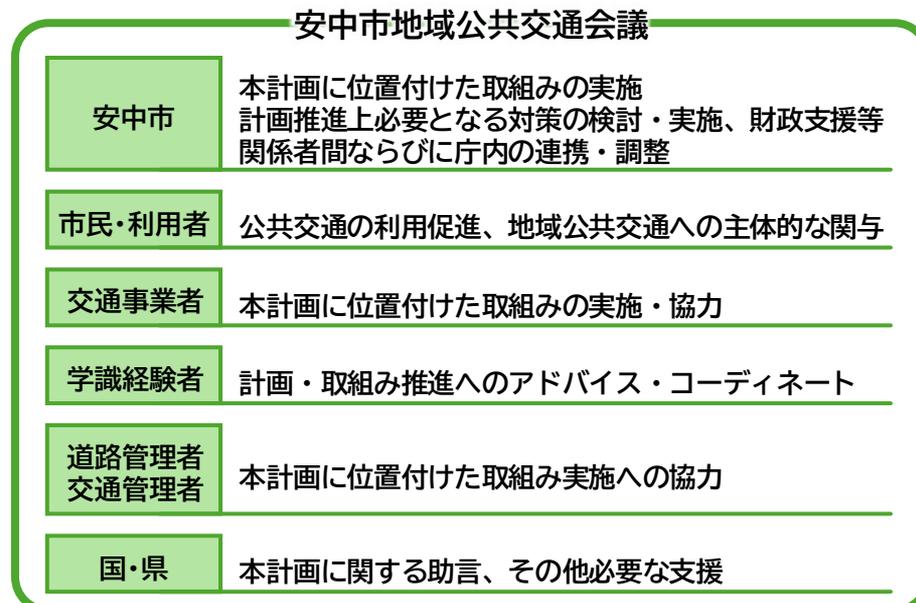
- 本計画における目標の達成状況を評価するため、計画最終年度(R12年度)時点の各目標に応じた評価指標値を設定しました。

計画目標	数値指標	基準年	基準値	目標値 令和12年度
【目標①】 既存サービスの見直し・改善による地域公共交通の利便性向上	指標1 安中市委託路線の利用者数	令和6年度	49,361人	55,000人
	指標2 安中市委託路線バスの収支率	令和6年度	13.2%	20.0%
	指標3 安中市委託路線バスの公的資金投入額	令和6年度	7,063万円	7,063万円
	指標4 公共交通の満足度(アンケート)	令和5年度	25%	33%
	指標5 公共交通カバー率	令和7年度	67%	99%
	指標6 鉄道利用者数(無人駅を除く1日平均乗車数)	令和6年度	①2,851人 ②269人	①3,000人 ②300人
【目標②】 多様な交通手段の確保による公共交通不便地域の解消	指標7 シェアリングサービスの数	令和6年度	2サービス	6サービス
	指標8 シェアリングサービスの利用件数	令和6年度	109件	327件
【目標③】 市民の意識醸成による公共交通の利用促進	指標9 市が市内事業者に対して実施するノーマイカーデー等のモビリティマネジメントの実施回数	令和7年度	0回	1回
	指標10 公共交通乗り方教室、乗車体験会の開催回数	令和7年度	2回	5回
【目標④】 新技術を活用した公共交通サービス従事者の労働環境改善	指標11 交通事業者の二種免許保有者数(タクシー、バス)	令和6年度	48人	48人以上
【目標⑤】 公共交通の利用環境の改善による利用促進	指標12 市内事業者のバリアフリー車両割合	令和7年度	26%	40%
	指標13 運行情報、広報媒体等の多言語化の実施言語数	令和7年度	0ヶ国語	14ヶ国語
	指標14 安中市委託路線UMECAの利用者数	令和6年度	72人	150人
【目標⑥】 新技術を活用したゼロカーボンシティの実現	指標15 EVバス等の導入車両数	令和7年度	0台	1台

6 達成状況の評価

■継続的な進行管理の体制

- 「安中市地域公共交通会議」の構成員が右に示す役割分担で取組みを実施します。



■達成状況の評価とスケジュール

- PDCAサイクルで、進捗を管理します。
- R12年度に最終評価を行い、目標の達成状況を評価します。